

編集 後記

59巻11号は、原著1編、研究ノート3編、資料1編、連載1編という構成になりました。介護予防事業のスクリーニング調査と要介護状態、特定健康診査の受診率と所得、認知症高齢者グループホームのケアスタッフのバーンアウト、人畜共通感染症であるレプトスピラ症の感染状況、自殺企図者の実態という、いずれも公衆衛生上意義のある論文が掲載されており、編集委員として嬉しく思います。

ところで、すでにご存じの通り本年のノーベル医学生理学賞は、ケンブリッジ大学のジョン・ガードン名誉教授と共同で京都大学の山中伸弥教授が受賞されたことは、誠に喜ばしい話題でした。iPS細胞の研究は、基礎から応用に至る医学の様々な領域に影響を及ぼすであろうことは、衆目の一致するところでしょう。

しかし一方で、研究が進展し、臨床の応用が展開されるに従って、様々な倫理的問題が生じる可能性も高まってくると推察されます。画期的で有用な研究であればあるほど、その影響も大きく競争も激しいため、利益相反なども含めて、研究者には、厳しい倫理性が求められるでしょう。

公衆衛生雑誌の編集においても、倫理的配慮や利益相反に関しては慎重に取り扱っておりますが、各機関の倫理委員会ですら、実際に研究に立ち会っていない限り、データそのものの信憑性を厳密に確認検証することは困難だと思われまます。ということは、どのような研究や臨床実践、地域活動においても、それを実施する人の倫理観が問われることになるはずです。そして、研究における倫理的配慮の基礎は、研究者の良心といえるのではないのでしょうか。研究者の一人として、私も改めてこのことを肝に銘じた次第です。
(長田久雄)

次号予告 (第59巻・第12号)

原 著

Diabetes prevention information in Japanese magazines with the largest print runs
Content analysis using clinical guidelines as standard.....上田英未, 他

研究ノート

男性勤労者を対象とした野菜摂取行動に関するトランスセオレティカルモデルの変容プロセス尺度の検討.....串田 修, 他
行政機関の保健師に求められる政策に関する能力と必要な保健師基礎教育の内容
市町村に勤務する保健師管理者への面接調査から.....平野美千代, 他

資 料

自治体レベルにおけるたばこ規制・対策の実態把握の試み.....鈴木朋子, 他

連 載

ヘルスサービスリサーチ(28).....田宮菜奈子